四郷小　学校だより

第　１５　号
令和６年９月１０日

全国学力・学習状況調査の結果について

本年度の全国学力・学習状況調査は、４月１８日（木）に全国の小中学校で実施されました。この調査は、学力向上を目指して、指導内容や指導方法の改善、生活指導に役立てる目的で行われているものです。本校でも６年生が、国語、算数の２教科と、児童質問紙（生活習慣や学習環境に関するアンケート）による調査を受けました。その調査結果が７月末に届きました。調査を実施した６年生には、２学期に入ってそれぞれの結果個票を返却したところです。

調査から測定できるのは、子どもの学力の一部であり、学校の教育活動の一側面ではありますが、結果をもとに学校と家庭が協力して、教育活動や児童の学習状況の改善につなぐことが大切です。そこで、今回の結果から見えてきた本校の特徴についてまとめてみました。

1　学力調査からみられる四郷小学校の特徴（強みと弱み）

本年度は国語は全国平均を上回る結果(全国平均正答率と比べて１．３％)県平均より２％上回る結果となりました。算数は、わずかながら全国平均を下回る結果(全国平均正答率と比べてー１．４％)県平均と同じ結果となりました。また、無解答率も全国平均よりも昨年度よりも低い傾向がみられました。

※　調査の問題・解答は文部科学省ホームページからご覧になれます。

【国語】※　○…強み（正答率が高いもの）●…弱み（正答率が低いもの）

記述式２問では、

○「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかみる問題」（設問3ニ：正答率82.４％）は平均を１０ポイント高くよくできていました。

○「目的や意図に応じて事実と感想、意見と区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き、表し方を工夫することができるかどうか見る問題（設問2ニ：正答率60.3％）で３．７ポイント高くよくできていました。

○「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかみる問題」（設問2三：正答率86.8%）も全国平均正答率より高くよくできていました。

○「記述式」の問題の無解答率が全国平均より低い割合でした。

○「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかみる問題」（設問2一：正答率85.3%）は、５ポイント高くよくできていました。

○「文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる問題」（設問3一：正答率67.6%）は５．３ポイント高くよくできていました。

○「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題」（設問3一：正答率67.6%）も５．３ポイント高くよくできていました。

●「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域では、全国平均正答率を下回っていました。「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかみる問題（設問1二：正答率48.5%）、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかみる問題」（設問1三：正答率61.8%）は４．４ポイント低いです。

●「情報と情報との関係、図などによる語句と語句との関係の表し方をみる問題」（設問2一：正答率79.４%）は７．５ポイント低く課題がありました。

【算数】

○「データーの活用」の領域で、「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかみる問題」（設問5(1)：正答率86.8%）は、５．２ポイント高くよくできていました。

○「図形」の領域で、「角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかみる問題」（設問3(４)：正答率77.9%）は、５．１ポイント高くでよくできていました。

○「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかみる問題」（設問5(３)：正答率45.6%）は、３．４ポイント高くでよくできていました。

●「数と計算」の領域では、全国平均正答率を少し下回っていました。

●「計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかみる問題」(設問2(1):正答率52.9%)、問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかみる問題」(設問1(1):正答率54.4%)は、４～５ポイント低いです。

●「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題」(設問4(3):正答率17.6%)で９．９ポイント低く課題がありました。(設問4(2)の問題「時間を求める問題」ではできているので、計算はできるが説明が難しいと考えられます。

2 児童質問紙からみられる特徴(学習・生活の状況に関して)

児童質問紙の中で何よりもよいことは「朝食を毎日食べている」「毎日同じぐらいの時刻に寝ていますか」「毎日同じぐらいの時刻に起きていますか」の項目では、三重県・全国ともにほぼ同じ割合で高く基本的生活習慣が整っているという点です。「人の役に立つ人間になりたい」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の項目では、かなり高いことがわかりました。一方「いじめはどんな理由があってもいけない」「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」という子の割合は１ポイントから６ポイント低いことがわかりました。

学習では「話し合いを生かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動ができている」と感じている子が多いです。また「５年生までに受けた授業は自分にあった教え方・教材・学習時間になっていましたか」「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」「５年生までに受けた授業でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用しましたか」については、全国や三重県よりも割合が高かったです。

一方、「学校以外での１日当たりの学習時間」は平日、休日ともに全国平均に比べ少ないということや「授業以外での１日当たりの読書時間」も全国平均に比べ少ないという実態がみられました。

3 学校質問紙からみた学校の特徴(県や全国との比較)

本校では、「一人一人のよい点や可能性を見つけて評価している」「言語活動について、各教科等の特質に応じて学校全体で取り組んでいる」ことが三重県や全国に比べよく行われていることがわかりました。

また、「コミュニティ・スクールの仕組みを生かして保護者や地域の人との協働による活動を行っていること」が三重県や全国に比べ、よく行われていることがわかりました。

調査結果をふまえた今後の取組について

1 指導の工夫・改善について

学校では、全教職員で学調の問題を解き、本校の児童の学力の強みと弱みについて話し合って分析をしています。今回の全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえて、全学年で学力向上のための授業改善に取り組んでいきます。特に、正答率が低く課題のある学習内容については、つまずきを克服するために、授業や朝の学習等で系統的・継続的な指導を行います。「長文を読み取る」「読み取って順序立てて整理する」「自分の考えをまとめる・伝える」といった力を子どもが身につけ伸ばしていくためには、普段から「読む」「書く」「話す」の学習を積み重ねていく必要があります。例えば、子どもが教科書の文章中にある文や言葉を根拠にして論理的に自分の考えを書いたり述べたりする授業が必要です。授業の中で、自分の考えや方法・筋道などについて、文章で表現する機会を多くとり、目的や意図に応じて適切に書く指導を充実させます。算数で公式やきまり、計算の仕方を学習するとき、そのわけや意味まで理解できるよう指導を工夫します。問題に対する答えを重視するのではなく、説明することを重点において指導を行っていきます。

またタブレット等ICT の活用も進めます。授業中でタブレットを活用して、調べるだけでなく、前述に記述したように、学習したことを整理したりまとめたりすることに使用します。さらにまとめたことを、アウトプットして、思いを伝える学習にも活かしていきます。「子どもが自ら学習を調整する力」を育てることも大事だと言われています。例えば、疑問に思ったら自分ですぐに調べる（インターネット）、自分で伝えたい方法で発表原稿の準備をする（写真、イラスト）、自分で決めた課題に取り組む（苦手を克服、発展問題に挑戦する）などです。家庭学習でも活かしてほしいと思います。

今後、タブレットで問題を解くようになっていくことが多くなっていきますので、タブレット操作、ローマ字入力、タブレットを自分の力で扱える力を高めていくことが必要です。

2 生活習慣・家庭学習について

ご家庭での家庭学習等のご支援ありがとうございます。全校で家庭学習について統一した取り組みを続けていることもあり、漢字や計算などの基礎的な学力は定着しつつあります。学習の定着のために、家庭学習の習慣化はとても大切です。宿題の内容や質、評価について定期的に検証していきます。家庭学習は、家庭との連携も必要になります。家庭学習をする時間や場所などを決めて取り組むことや注意喚起につながるような声かけなど、ご支援ご協力をお願いします。